

学校教育目標	「希望(ゆめ)を実現する生徒」—学べ・磨け・輝け—
目指す学校像	誰からも愛され、誇れる学校 「学べてよかった学校」…生徒 「通わせてよかった学校」…地域や保護者 「勤務してよかった学校」…教職員
重点目標	1 確かな学力の定着と向上に迫る「わかる・楽しい」授業の展開 2 迅速で確実な対応を目指す連携した生徒指導、教育相談体制の構築 3 コミュニティ・スクールによる連携強化、情報発信の充実 4 安心・安全で潤いのある教育環境づくりの一層の推進 5 教職員の資質向上及びワーク・ライフ・バランスの充実

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

心のサポートに関する取組

地域とともに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校自己評価					年度評価			学校運営協議会による評価		
年度目標					年度評価			実施日 令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		達成度	次年度への課題と改善策		
1	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査では、国語・数学ともに県平均及び全国平均を上回っており良好な結果である。 ○学校評価アンケート「授業の内容の理解」に関する項目では、昨年度、肯定的な意見が保護者では81%、生徒では94%となっている。 ○日頃の学習の様子から、調べたことを整理してまとめ、プレゼンテーションしたりすることに意欲的に取り組む生徒が多い。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学力は全体的に高い水準を示しているが、個別に支援が必要な生徒が各学年複数名在籍する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「個別最適な学び」の推進に向けた情報端末の活用、授業改善 ・教科横断型の「探究的な学び」の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ①「さいたま市スマートスクールプロジェクト」構想にかかわり、与野東中学校としてのスタンダードを確立する。 ②スタディ・サブリを学校及び家庭において活用し、特に家庭学習の充実を図る。 ③「学びの指標」や「学びのポイント」を活用した授業研究を各学年が年間1回以上取り組み、児童が目標をもって主体的に学べる「探究的な学び」を実践する。 ①STEAMs教育については、作成したカリキュラムの検証を行う。 ②SDGs教育については、PRシートを確実に実践する。また、見直しを行い、学習に結び付くカリキュラムを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日の授業でタブレット端末を活用することができたか。 ②学校及び家庭において、スタディ・サブリを活用した学習に取り組みることができたか。 ③学校自己評価において、関連する項目の肯定的な回答の割合が昨年と同様もしくは向上できたか。 ①「STEAMs TIME」をカリキュラム通りに実施することができたか。 ②SDGs教育のPRシートを確実に実践することができたか。また、見直しを行い、学習に結び付くカリキュラムを作成することができたか。 						
2	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校評価「学校の生活は楽しい」の質問に肯定的な回答をする生徒の割合は、近年(R5・R6)、9割以上である。 ○生徒は全体的に落ち着いている。生徒の学校内外における挨拶については、継続した取組の結果、地域の方々からもよい評価をいただくことが増えた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全体的に教育相談に係る配慮が必要な生徒が多く、Solaのらむ等に登校する生徒へのアプローチが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の教育活動を支援するための組織的な対応 ・オンライン授業やSolaのらむ等の適切な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒に関わる課題については、「チーム学年」で対応し学年主任を中心に「事実の確認→生徒への適切な指導→保護者への連絡」を迅速かつ確実に行う。 ②生徒指導・教育相談に関わる情報交換を週1回行う。 ①登校はできるものの教室に入れない児童生徒や不登校生徒のために、地域の方にも協力いただき、Solaのらむ等を活用し、安心・安全な居場所の確保や学習機会の保障を行う。 ②生徒の学びを止めないために、欠席者については、オンライン授業等で学習のフォローを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の課題を覚知した際、その日のうちに解決することができたか。 ②生徒指導・教育相談に関わる諸課題について、学年や関係機関等と連携して対応することができたか。 ①Solaのらむ等の適切な活用を行うことができたか。 ②希望者に対して、オンライン授業を実施することができたか。 						
3	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○例年、コミュニティ・スクールにて、生徒に育成させたい力について熟議をしている。今年度は、更に具体的な事例を基に学校と地域が連携した取組を熟議していく。 ○地域や保護者に対して、活発に情報提供を行うために各自治会と連携すると共に、電子化をすすめているところである。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会での話し合いは充実しているが、役割を明確化した組織的・継続的な連携・協働体制をより進めていく必要がある。 ○学校HPは、適宜更新の頻度がまだ低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールによる一学校、家庭、地域との連携強化 ・デジタル・トランスフォーメーションの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①今年度コミュニティ・スクールで取り組む「地域の支援に感謝をし、自らを律し、一生懸命取り組む生徒」について、熟議で具体的な方策を探り、実践する。 ①今後、学校だより等の定期的な配布物をはじめ、文書形式のものについては、可能な限り電子媒体(スクリレ)で掲載する。 ②生徒の欠席連絡については、Formsを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校運営協議会の熟議でテーマにかかわる具体的な方策を決めることができたか。 ②具体的な方策を実践することができたか。 ①紙媒体での配布を必要最低限とし、電子媒体による情報提供ができたか。 ②欠席連絡について、欠席連絡をFormsに一本化することができたか。 						
4	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全点検実施結果に対して、迅速・確実に対応する体制を整えている。学校評価では「積極的な環境美化への取組」について、昨年度、肯定的な意見が、生徒97%、保護者96%であった。 ○それぞれの生徒や保護者の教育的ニーズを積極的に把握し、個に応じた指導に反映している。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校舎が古く老朽化しており、施設設備の不具合、故障が多い。 ○個別のサポートを必要とする生徒に対するさらなる効果的な関わり合いを検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全、安心な学校生活のための教育環境の充実 ・生徒や保護者の教育的ニーズに応じた支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①校舎の状況を確認するために、校内巡視を随時行い、修理が必要な箇所と思われる場合は、関係機関と相談をし、学校でできることを迅速に行う。 ①保護者や生徒の教育的ニーズを丁寧に把握し、生徒の状況や学習進度、学習到達度などに応じて、学習方法、教材、学習時間などを適切に調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①修理が必要な箇所が見つかった場合、関係機関と相談して進めていくか、学校で対応することができたか。 ①保護者や生徒の教育的ニーズに応じた学習方法、教材、学習時間などを適切に調整することができたか。 						
5	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○デジタル機器の取り扱いに慣れた教職員が多く、タブレット等のICT機器の操作の習得が早い。 ○情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業において従来から「課題を意識し、解決する学習」のための指導法を大切に、タブレットが目的にならないようにする。 ○職員が見通しをもって業務に当たれるよう、計画的に学校を運営することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「主体的・対話的で深い学び」を推進するための指導力の向上 ・職員の計画的な業務 	<ul style="list-style-type: none"> ①問題解決型学習において、本時の目標に特化したまとめと振り返りをする授業を全員ができるようにする。 ②校内巡視をする際、授業を参観し、必要に応じて指導を行い、コミュニケーションを図りながら、教職員の指導力の向上を図る。 ①個々に応じたノー残業デーを各自で設定するよう働きかける。 ②適宜、職員に声をかけ、相談に応じたり、必要に応じて指導・助言を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①問題解決型学習において、本時の目標に関わるまとめと振り返りをする板書ができていくか。 ②全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ①ノー残業デーを各自で設定し、実行することができたか。 						

学校運営協議会からの意見・要望・評価等

